

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

|      |  |          |
|------|--|----------|
| 対象部局 | 統括部局：学長室   | 担当部局：学長室 |
| 大項目  | 4 教育研究組織 《全学的な視点》  |          |
| 中項目  |  |          |
| 小項目  | 4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 |          |
| 要素   | 教育研究組織の編制原理<br>理念・目的との適合性<br>学術の進展や社会の要請との適合性<br>(KG1)研究活動の状況    |          |
| 小項目  | 4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。                              |          |
| 要素   |  |          |

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」  | 左記目標の「指標」  | 進捗状況(達成度)評価 |      |      |      |      |
|--|--|-------------|------|------|------|------|
|  |  | 2009        | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 高等教育推進センターを設置し、高等教育を取り巻く環境の変化に対応するための全学的施策を練るとともに、FDに関する全学的方針の策定と推進を行う。 | →教育のための情報インフラ整備と、LMSのユーザ数および科目数の増加。教育に関する効果的な提言の数。外部への情報発信の頻度。   | B           | B    | B    | A    | A    |
| 2. 共通教育センターを設置し、全学共通教育の質を担保する。   | →共通教育プログラムの提供科目数、履修者数、単位取得率。ただしこれらはアウトプット評価指標にしかならない。アウトカム評価は、これらの科目単位を取得した学生が社会において活躍し高い評価を受けることによってなされる。 | B           | B    | B    | B    | B    |
|  |  | ☆           |      |      |      |      |
| 2010年度以降に設定した「目標」  | 左記目標の「指標」  | 2009        | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|  | →  |             |      |      |      |      |
|  | →  |             |      |      |      |      |

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

|     |   |  |   |
|-----|---|--|---|
| 目標1 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br>高等教育推進センターを主体としてLMS利用のためのFDをはじめとする利用促進施策を開催してきた。また2013年度の組織改編時に、高等教育推進センター規程を改正し、全学的教育情報インフラ整備のためのセンターの位置づけと役割を明確化した。 | ☆ |
|     |   | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br>LMSの2014年度の利用状況は学生92.0%(2013年は65.8%)、専任教員69.8%(同53.9%)、授業科目数38.7%(同12.2%)であり、着実に利用がすすんでいる。  | ☆ |
|     |   | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br>今後も現在の施策を継続して推進してゆく。  | ☆ |
|     |   | その他  | ☆ |

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 目標2 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br>共通教育センターを中心に2010年以降学際連携科目、スポーツ科学・健康科学科目、情報科学科目を提供してきたが、2013年度より再編し従来の学際連携科目の「学際科目群」「ライフデザイン科目群」「連携科目群」は「基盤・学際科目」および「ライフデザイン科目」として提供を開始した。また総合コース、人権教育科目、平和学等は「基盤科目」、寄付講座や連携講座は「連携科目」として提供している。 | ☆ |
|     |   | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br>2013年の開講実績は基盤・学際科目は84科目(受講者数7499名)、スポーツ科学・健康科学科目65科目(同2477名)、情報科学科目13科目(同4524名)であった。近年特に初年次教育およびキャリア教育においてアクティブラーニング型授業を推進してきたが、これらの授業の満足度は非常に高く一定の教育的効果を上げていると思われる。   | ☆ |
|     |   | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br>今後は1)スタディスキルやグローバルキャリアデザイン入門等、入学早期からの学習態度への積極的関与<br>2)社会連携プロジェクト等課題解決型授業に重点をおいてゆく  | ☆ |
|     |   | その他   | ☆ |
|     |   |   | ☆ |
| 備考  |   |   | ☆ |